

# 第1章 国際貿易の基礎知識

## 1 貿易取引の特徴

貿易取引は契約が成立するまでは売主と買主が舞台の上で主役を演じるが、契約条件を履行する段階では多くの貿易関係者が舞台に登場し、売主と買主は演出家となってこれらの協力者の機能を引き出す役割を演じることになる。このような性格を持つ貿易取引は国内取引と比べて取引上のリスクも大きくなる。このため、次のような特徴を持つ貿易取引をビジネスとして成功させるためには、詳細は第2章以降で取り上げる国際的な制度を理解し、それらの制度・仕組みを活用することが大切である。

- ① 取引相手を良く知らない。
- ② 取引相手とは法律、商習慣、言語など文化が異なる。
- ③ 契約の履行は関係者が提供する国際的なサービスに依存する。
- ④ 異なる通貨による決済の場合が多い。
- ⑤ 国の管理がある。
- ⑥ 貨物の移動距離が長く環境が異なる。

### (1) 共通理解のための国際的なルール

異なった文化を持つ外国との貿易取引を円滑に進められるように、貿易取引に係わる各分野においては図表 1-1 の国際的な共通解釈や制度を整える努力がなされてきた。

例えば、限られた語数の電報による取引交渉が何故可能であったかである。テレックスは 1956 年に日米間で使用が開始され、全盛期は 1984 年であったが、テレックスが導入されるまでは国際コミュニケーション手段は主として電報であった。電報による取引交渉を可能としたのは、当事者がそれぞれの分野の国際的な仕組みやルールを理解していることから、単語や略語で意思を伝達できたからである。

図表 1-1 国際制度と貿易分野

分野	代表的な国際制度	対応分野
貿易管理	WTO 諸協定	外為法、貿易関連法令
売買契約	インコタームズ、ウイーン売買条約	売買契約条件
外国為替	信用状統一規則、取立統一規則	代金決済
国際輸送	船荷証券統一条約、ワルソー条約	海上運送契約、航空運送契約
海上保険	英国保険証券・約款	貨物海上保険契約

## (2) 貿易実務は 3 つの流れを理解すること

貿易取引には 3 つの流れがある。3 つの流れとは貨物（モノ）、代金（カネ）、書類・情報（カミ）の移動で、これらの流れは売買契約条件に基づき売買当事者が関係者の協力を得て実行される。この内、情報を含めた書類は取引交渉の開始前から船積みあるいは荷受されて取引が完結するまでの、あらゆる段階で移動する。書類の移動は売買当事者間、売買当事者と政府機関を含めた関係者との間あるいは関係者間でやり取りが行われることから大きな役割を演じることになり、カミの流れを理解することが貿易実務の基本となる。

- ・モノの流れ…貨物の移動…運送、保険…（輸出者→輸入者）
- ・カネの流れ…代金の移動…外国為替…（買い主→売り主）
- ・カミの流れ…書類の移動…契約、諸手続…（売買当事者・関係者間）

基本的にはモノ、カネは一方向に 1 回流れるが、カミは取引交渉の開始前から取引の終了に至るまで頻繁に関係者相互間で多方向に流れることになる。

## (3) リスク対策が欠かせない

貿易は異文化間の取引であることに加えて、契約の締結から貨物の引渡し、受取りまで、あるいは代金決済の完了までの期間が長いことから、危険やトラブルに遭遇する可能性は国内取引に比べ高くなる。例えば、契約の不履行、貨物の損傷、支払いの遅延、外国為替相場の変動、貨物の欠陥から発生する PL 責任などを掲げることができる。

危険やトラブルを防ぐための基本的対策は図表 1-2 の「リスク」の存在を理解して、信頼のおける相手と契約を結び、契約条件で責任の所在と危険の負担者を明確にして、お互いが契約を誠実に実行することである。さ